

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会議の名称	令和2年度第2回朝霞市博物館協議会	
開催日時	午前・ 午後 2時00分から	令和3年 2月25日（木）
	午前・ 午後 3時20分まで	
開催場所	朝霞市博物館 講座室	
出席者	委員7名（榎本洋二委員・金子幸男委員・唐松善人委員・五味良子委員・酒井光弘委員・利根川仁志委員・茂木静枝委員） 事務局4名（神頭生涯学習部長・関口文化財課長兼博物館長・赤澤文化財課長補佐・友正主事）	
会議内容	1 令和2年度事業報告 2 令和3年度事業計画 3 その他	
会議資料	資料1 令和2年度事業報告 資料2 令和3年度事業計画	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 会長による内容確認	
その他の必要事項	傍聴者 なし	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（赤澤課長補佐による司会進行）

（神頭生涯学習部長より挨拶）

（各委員・事務局の自己紹介）

（赤澤補佐）

それでは、次に正副会長の選出を行います。関口課長が仮議長を務めさせていただきます。

（関口課長）

それでは、仮議長を務めさせていただきます。

まず、本日の会議の公開についてですが、本市の「市政の情報提供及び審議会等の会議の公開に関する基準」により、非公開に該当する部分はありませんので本日の会議は公開とし、傍聴要領に基づいて傍聴を許可しています。会議の途中で傍聴希望者があった場合には、傍聴要領に沿って入場していただきますのでよろしくお願いします。

それでは、博物館条例第9条に基づき、協議会の会長及び副会長の選出を行います。まず始めに、会長の選出を行います。自薦・他薦を問いませんが、いかがでしょうか。

（茂木委員）

ずっとやられているので、金子委員にまたお願いしたいと思います。

（関口課長）

ただいま、金子委員にお願いしたいとのお話でしたが。

（全委員）

異議なし

（関口課長）

それでは、金子委員に会長をお願いいたします。

では、次に副議長の選出をお願いします。こちらも自薦・他薦問いませんが、いかがでしょうか。

（利根川委員）

今まで、長い間金子委員にお世話になりまして、ずっとサポートをしてこられた茂木委員が良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

(関口課長)

ただいま、副会長に茂木委員をとの意見がありましたが、いかがでしょうか。

(全委員)

異議なし

(関口課長)

それでは、会長に金子委員、副会長は茂木委員に決まりました。

正副会長が選出されましたので、これで仮議長を下ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。

(赤澤補佐)

正副会長は、会長、副会長席に御移動をお願いいたします。

それでは改めまして、正副会長に一言御挨拶をお願いいたします。

(金子会長・茂木副会長の挨拶)

(赤澤補佐による会議開催要件についての確認及び報告)

(金子会長へ議事進行を依頼)

(金子会長)

それでは議事に入らせていただきます前に、協議会の議事録の確認ですが会長の私に一任いただいてよろしいでしょうか。

(全員)

異議なし。

(金子会長)

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは、これより議事に入らせていただきます。本日の議題は、令和2年度事業報告、令和3年度事業計画、その他の3つございます。となっておりますのでよろしく御審議のほどお願いいたします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

◎議題（1）令和2年度事業報告について

(赤澤補佐)

はい。それでは事務局の赤澤からまず議題（1）令和2年度事業報告について

御説明させていただきます。

資料1 事業報告をお開きください。1月末日までの統計で御報告をさせていただきます。

まず、1. 令和2年度利用統計 1月末日までのところになりますが、開館日数196日、入館利用者数12,535人となっております。ここで資料で間違いがございました。すぐ下の段の令和元年度が平成元年度になっております。大変申し訳ありません、訂正をお願いいたします。昨年度は天井工事に伴う休館等ございまして206日の開館日数で、31,770人でした。今年は後程御報告させていただきますが、コロナ関連の臨時休館等ございました。今のところ、今回の非常事態宣言に伴う臨時休館はございませんので、予定通り開館をしているところでございます。

そして2. 令和2年度事業報告ですが、こちらにつきましては10月の時に半年分は御報告させていただいておりますが、委員さんが変わられたこともありますので、改めてざっと御案内させていただきます。

常設展示は通年のものと、民俗分野、美術・工芸分野がエポック展示として入れ替わりをしております。「むかしのくらし」につきましては、4月から12月15日で一旦切らせていただいて、その後展示物は一度撤去して丸沼芸術の森コレクション展の準備に入りましたが、こちらは開催ができなかったため1月30日から今の状態で展示をしております。美術・工芸分野につきましては、7月の夏の展示の前に一度片付けをしまして、こちらにつきましても夏の予定していた展示はできず、代替展示を行いまして、また1月30日から復活して現在展示を行っているところでございます。

企画展につきましては、予定していた第35回企画展「黒目川左岸の弥生時代～西久保・宮山遺跡とその周辺～」は、中止とさせていただきます。

そして10月の協議会の際は議題4. その他で御案内しました、「丸沼芸術の森コレクション『朝霞にファン・ゴッホ！～日本初公開の水彩画に観るファン・ゴッホの新たな魅力～』ファン・ゴッホ、シスレー、シャガール、珠玉の三選特別展示」を1月16日から24日まで行う予定でしたが、こちらにつきましては緊急事態宣言が発令されるという話が会期1週間前にありまして、1月8日（金）に共催の丸沼芸術の森との協議を行い、延期という結論になり、予定していたものは実質中止となりました。

続きまして資料1-2になります。テーマ展示「黒目川のひみつ」「朝霞市県展作品展」は両方とも中止となりました。県展作品展につきましては、今年度第70回埼玉県美術展覧会、いわゆる県展自体が中止となったため中止とさせていただきます。後程来年度のところでも御案内いたしますが、来年度に第70回埼玉県美術展覧会は延期となっておりますが、そちらも中止となったということが先日県の方から発表されました。なので来年度も実施はないということになり

ます。

そしてギャラリー展示につきましては、昨年度から引き続き行っておりました「雑誌『ゴルフ』と朝霞ゴルフ場」が6月7日までの展示を無事終わりました。「みんなあーちすと」は夏のワークショップと、展示ともに中止となりました。次の「写真展～旧高橋家住宅の夏景色～」及び「秋模様」につきましては、代替展示といたしまして夏と秋の期間にそれぞれ行わせていただきました。「午房地山と武蔵野台地の横穴墓」につきましては、今現在開催中で皆様の机の上にパンフレットを置かせていただいております。こちらは来年度の6月6日までの継続事業となります。

続きまして収蔵資料紹介展示につきましては、企画展等ができなかった代替展示として展示室の美術・工芸分野の場所で夏と秋に行わせていただきました。

続いて資料1－3になります。小さい展示で資料紹介展示がありまして、今現在玄関にて行っております小学校1年生博物館利用授業関連展示「ワタから糸へ」は、エポック展示の復旧とあわせて1月30日から来年度6月6日まで実施する予定です。そして博物館実習生展示は、博物館実習の集大成として実習生が行い、夏休みの期間から秋まで展示ケース2台を使用して展開させていただきました。

生体展示は通年で「朝霞で見られる水の生き物」をラウンジにて、夏の期間はカブトムシをエントランスで展示させていただきました。

次の埼玉県立自然の博物館研究発表会は、今回初めての企画で、埼玉県立自然の博物館と共催という形で12月5日(土)に講座形式で行いました。募集や参加者の抽選などの作業は自然の博物館が行いまして、定員30名のところ27名の御参加がありました。この時に、この部屋での座学の実施方法など工夫いたしまして、現在古文書講座が2回終わって今週末に3回目、歴史講座が同じく今週末から3週連続を予定しておりますが、どちらも定員30名としまして、このような形でドア等を開けて暖房をつけながら換気をしつつ、長机を2人で使用し間にパーテーションを立てて行うということで、距離をとり感染症対策を行いながら講座を実施しているところでございます。

歴史講座につきましては、今週末からの実施で定員30名で募集したところ2月3日(水)から受付開始で翌日には枠が全て埋まってしまいました。その後も問合せを結構いただいておりますが、定員満了ということでお断りをさせていただいているところでございます。

古文書講座につきましては、期間を設けて抽選という形をとったところ52名のお申し込みをいただきました。こちらは抽選で30名まで絞らせていただきました。皆様から非常に御好評いただいております。

続きまして資料1－4になります。体験教室の関係は、濃厚接触にあたる部分もございまして、今年度は全面的に中止とさせていただきます。また博学連携事業につきましても、本来ですと博物館利用検討委員会の先生方と一緒に決め

ていく部分がありますが、今回は新型コロナウイルスの関係で開催自体ができなかったため、教育指導課と協議したうえで6年生と3年生については中止いたしました。1年生につきましては、本来ですと学校に赴いて糸車で糸を紡ぐ体験をクラスごとに行います。しかし、そちらができないので糸車で糸を紡ぐ映像を博物館の方で作成して、体験用の糸車とともに貸し出しをさせていただきました。結果、7校で利用がありまして、先生に取りにきていただき授業の際に映像を流してワークシートで学習するということをさせていただきました。初めての取り組みですが、「コロナ禍のなかで仕方がない、本当は体験したかったが映像もとてもよかったです。」というような感想をいただきました。

続きまして博物館実習につきましては、学芸員養成課程履修学生の館務実習を夏休みの期間受け入れまして4大学4名の参加がありました。

調査につきましては引き続き、市内に残っている古文書の解読を行っているところでございます。

続きまして資料1-5. 刊行物・広報につきましては、刊行物は丸沼芸術の森コレクション展が開催予定でありましたので、ポスター・チラシを共催の丸沼芸術の森から足りない旨のお話をいただいたので増刷もかけましたが中止となってしまったということでございます。多くの在庫がございますが、館内の廊下に配置して、欲しい方はご自由にお取りくださいということで記念にお持ち帰りいただいております。ギャラリー展示のパンフレットは、今お手元に配布しているものでございます。そして、今年は調査報告書の発行年になりますので、3月末に旗本富永氏関連文書の報告書として刊行する予定でございます。また、広報等は記者発表による報道機関等への周知を行うとともに、取材に応じて事業の情報提供を行っております。また、随時広報あさか毎月号とホームページでサービスの情報を発信しております。今年は丸沼芸術の森コレクション展の開催及び延期で記者発表を2回行いまして、新聞社等からお問合せがありました。

また、前回詳細をお話ししました4. その他ですが、まず1回目の緊急事態宣言による臨時休館を4月2日（木）から5月25日（月）までの54日間させていただきました。朝霞市は市内で感染者が確認された翌日から公共施設を閉めるという判断が対策本部でなされていたので、4月2日からとなります。それから、例年の館内くん蒸による臨時休館は6月12日（金）から6月18日（木）まで行いました。そして新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による影響ですが、まず展示5本、体験教室全5回、夏休み体験教室全3回を中止とさせていただきましたが、代替展示を行ったことで展示自体の本数は変わらず実施することができました。1回目の緊急事態宣言解除後、徐々に制限を解除してはいたしましたが、現在も継続してハンズオン、触れる展示は全面撤去、冷水器使用不可、ラウンジの机を減らしていること、図書室・ラウンジ・映像コーナー・展示室の椅子を減らしていること、団体見学を不可としていること、ということで利用制限を

行っております。県立の博物館・美術館では、緊急事態宣言に合わせまして12月24日から継続して休館しておりますが、公立館につきましては対応にばらつきがあります。約半数が休館、残り半数が開館というような状況ですが、当館につきましては感染症対策を講じた上で開館しているという状況でございます。長くなりましたが以上で今年度の事業報告を終わらせていただきます。

(金子会長)

はい、ありがとうございました。ただいま、説明がございましたが御意見、御質問はありますか。

(利根川委員)

令和2年度は本当に新型コロナウイルス感染症対策で、多くの事業が中止となってしまって本当に残念な思いです。また、特に小・中学校の事業は毎年楽しみにしている子ども達も多かったと思いますので、本当に残念です。

まず、1つ伺いたいのは先月行われる予定だったファン・ゴッホの展示ですが、相当人が来るのではという予想があった中で、1月7日に緊急事態宣言が再び発令されてしまいました。先ほどの報告では、博物館側と丸沼芸術の森の須崎代表との相談のうえ延期となったというお話がありました。非常に貴重な作品でありますので、打合せの際に今後のコロナ終息後の話などは出なかったのですか。

(赤澤課長補佐)

その打合せの時に、コロナウイルスが終息したら企画からしましょうということでお話をいただいております。

(利根川委員)

そうですか。

(赤澤課長補佐)

丸沼芸術の森からもぜひにということで、まず最初に朝霞でお見せしたいというお気持ちはいただいております。

(榎本委員)

補足ですが、よろしいですか。

(金子会長)

どうぞ。

(榎本委員)

丸沼芸術の森の須崎代表の言ですが、やはりせっかくの作品なので。今回予定していたものは結構時間がなくて、急きょ企画したような形でしたよね。それで、もう少し今度は内容を膨らませて皆さんに観ていただきたいと。そういう気持ちをもっておりますので、良い形で実現できるのではないかと、ということでございます。

(金子会長)

楽しみにしています、ありがとうございます。急きょでしたからね、今度はもっと内容を膨らませてやるということで、期待したいと思います。

では、他になにかありますか。

(利根川委員)

引き続き、よろしいですか。

(金子会長)

どうぞ。

(利根川委員)

ではこの件につきましては、今後の新たな企画を楽しみにさせていただいて。次に入館・利用者数の見方というか、考え方ですが、令和2年度利用統計で4月から1月末までのもので、開館日数196日で12,535人と記載があります。そして、常設展示を見ると通年で参加者数に入館・利用者数と同じ数字が入っています。他の記載を見ると、中止となったもの、開催したものは参加者数の記載があり、統計の人数の考え方はどのようにすれば良いのでしょうか。

(赤澤課長補佐)

これは入館者数になりますので、各展示の参加者数というのは展示期間の来館者数を足しあげたものになります。ですので、常設展示で通年のものは。

(利根川委員)

すみません、ちょっといいですか。

(金子会長)

どうぞ。

(利根川委員)

生体展示の欄があるのですが、この人数というのは水槽のそばでカウントしているのですか。

(赤澤課長補佐)

こちらの生体展示と、常設展示で通年のものは入館者数とイコールになっておりますが、入口にカウンターがありそこで計っております。確かに、展示を御覧にならず、お手洗い等だけ利用なさってお帰りになる方もいらっしゃるかと思いますが、そこまでは計れないのでイコールとさせていただいている次第でございます。

(利根川委員)

それでは、入館されたので展示は御覧になられているということで。あとは、これは質問ではないのですが、今年度も終わりに近づき、令和3年度に色々な企画をして、どうコロナの対応を取っていくか。ワクチンの対応も進めば何とか落ち着くのかなとは思いますが。本当に御苦労されると思いますが、多くの方に楽しんでいただけるよう信じて、博物館の職員の皆さんにはまた1年間頑張っていたきたいなと思っていますので、よろしくお願いします。

(金子会長)

はい。では次の方どうぞ。

(酒井委員)

今の利根川委員の質問と絡むのですが、人数のカウントというのは入口でセンサーか何かでカウントされているということで理解したのですが、他の場所、例えば常設展示の所も同じような形で何か人感センサーのようなものでカウントされているのか、あるいは入口に企画によっては係員の方がおられる時もありまして、その方がカウンターでカウントされているのかを確認したいのがひとつ。

あと、これは要望というか意見なんですが、朝霞市第5次総合計画の中で学習・教育の中に成果指標と言いますかK P Iとして博物館の入館者数で目標値を設定されてますよね。去年ですと、目標が5万2300人とか確かそのくらいの数字なんですね。それで、実績はここ数年を見ますと4万人前半くらいの数字なんです。これはある意味では川越と朝霞の2館しかない貴重な博物館が目標と実績に乖離があって、低調という印象を与えてしまうのではと。博物館は本当に利用されているのかというように、変に誤解される指標ではないかと一市民としては思います。そうした時に目標値は、私も資料を見たら年に300人くらいずつアップしていて、一方で実績はここ数年間はずっと低調です。せっかくの博物館があ

まり人気がない、あまり活用されていないと誤解を招くと、せつかくの博物館が生きてこないんじゃないかと。何を言いたいかといいますと、目標値を達成させようというのであれば、お金は限られたリソースの中でどうやって配分していくのか、必要によっては予算をもっと増やすとか、人員を増やすとか、企画をもう少しお金をかけたものにするとかしないと、目標達成は難しいんじゃないかと。逆に、そういう人数を上げることが博物館の価値を評価する指標として本当にみていいのかということ考えた時に、指標を少し見直すということも、私は必要なのではないかと思います。そうしませんと色々な市の資料を見ますと、目標値は年々厳しくなっていて、これはやはり本来の姿ではないといいますか、変に評価をされてしまうといいますか。

(金子会長)

はい、わかりました。

(酒井委員)

よろしくその辺りを検討いただきたいなど。

(関口課長)

K P Iの話が今ありましたが、私も4年前に着任したときに年間の入館者数が5万以上を求められているなどというところは感じたところです。

その辺りはまず、その数字が出てきたいきさつを調べますと、従前一番入館者数が多かった頃に5万くらいにいていまして、その頃にK P Iを立てているようです。そうしますとK P Iを立てるといときは成長戦略なので、現状維持は許されなかったということだったようで。必ず上げるようにしなさい、というお話でしたのでそれが年々といきますと、ちょうど丸沼芸術の森から色々御協力を何度もいただいていた一番ピークの時の数字が基準になってしまっていて、実際実情とかけ離れたK P Iが出てきてしまっているところです。現在後期計画を作成しているところで、入館者数につきましても若干修正を入れさせていただいているところでございます。市町村の博物館のおおよその平均というのは、3万5000人というふうに言われています。博物館業界の数字を足しあげて市町村を含めて平均を出すと、だいたい3万5000人から4万人くらいの数字が出てきます。個人的には当館はさほど活動的に停滞しているという感じはしていないところです。K P Iの齟齬があるところですので、その辺りについては後期計画で直していきたいというふうに考えております。

(酒井委員)

わかりました。

(金子会長)

では、そういうことで。

(赤澤課長補佐)

展示の方の人数の数え方ですが、確かに来館者の方を手元のカウンターで数えていた時期もありましたが、現在は入口のカウンターで入館いただいた人数イコール展示を御覧になられた人数というふうにカウントしております。確かに、展示を御覧にならずにお帰りになられた方もいらっしゃるかと思いますが、皆様展示を御覧になられたというように数えております。

(酒井委員)

はい、わかりました。

(金子会長)

まあ、私もいつも思うんですけどね。この博物館のね、立地条件というのが本当に良い条件ではないんです、私何回も言うんですけど。その中で、これだけの人たちを集めるというのは、私は素晴らしいことだと。だからやはり規模としても博物館としては小さいです。しかしながら、常設展示、あるいは特別展示、色々な企画を今までしてきまして、私が関係するようになってから本当に職員の努力が。

こういうことがあるんです。ある、群馬県の大学から講師を呼んで、これは公民館の方だけど。そうしたら、講師料が高いんですよ。ところが、主催者側の人が何を言ったかという、「たとえ一人であっても、受けたいという人がいれば、受講者を大切にしなければならぬ。」と。だから必ずしも、ただダーっと意味もなく大勢入ってきた方がいいのか、あるいは本当に博物館を見たくて来たのか。そのどちらがいいのかを私は判断しませんが、だから人数を5万というふうに設定したということもあるでしょうけど、人数が必ずしも多いからというわけではないと、私は思うんですけど。ちょっと横道逸れましたけど、本当に今コロナで入館者が減っておりますけど、また段々これから色々な企画をしていただいて、大勢の人に見に来ていただくことがいいんじゃないかと。私はそんなふうに思います。

(茂木副会長)

単純に入館者数を増やすのは、予算が沢山あればすぐできることなんですけどね。限られた予算の中と、職員の数、その少ない人数の中でどうやって来館者を呼べるかという形はとても大変なことなので、それを今までやってこられたことはすごい企画力だなと思っています。私の知っているサークルさんも、お子さ

ん連れでしょっちゅう博物館に来てた方たちがいらっしゃいます。そうすれば、ここに来れば夏休みの宿題ができるとか、ここ来ると何とかの勉強ができるって喜んでくるんですね。小さいときに連れて来られたら、大きくなれば一人で来られるので博物館はよく行ってますってことなので。その辺の歴史はちゃんと積み重ねられているのではと思っておりますので、私は博物館に来るのが楽しみです。皆さんの意見を聞くと楽しいので、色々な御意見がでたということで、いい勉強をさせていただきました。ありがとうございます。

(金子会長)

はい、まあ意見を出していただくのも大切ですけど、そんな思いもあるということ。

(酒井委員)

今、会長と副会長がおっしゃっていたように非常に博物館は愛されていると思います。私も何回かお邪魔してまして非常に好きなんです。ただ、それが市の評価から見ますと低調だと思われるのは。やはり指標を見直していかないと、市民の思いと評価が乖離するというのはよろしくないし、これからも皆に満足していただけるというふうに判断していただければ、多分予算も人員ももっと増やしていただけると思うので。それが今の指標だと低調だなと評価されると、どんどん縮小していくと。そうすると寂しいなと思ってますので、ぜひよろしく願いしたいなど。

(金子会長)

予算の件は、議員さんがおりますので。予算を増やすのは難しいですけど、でも博物館の方では、割合と市長さんや議員さんも理解していただいてやってきていると私は思っておりますけど。あと、何かございませんでしょうか。学校の先生からは何か。

(唐松委員)

はい。朝霞第五小学校校長の唐松です。いつもどうもありがとうございます。今年度はコロナ対策ということで、本当に学校側もたくさん活用させていただきたいところだったのですが、現状では活用することができず大変申し訳ないと思っております。本当に、朝霞市博物館の方々には学校のために色々力を尽くしていただきいただいているので、ありがたいかぎりです。

今回、1年生で映像を使った取り組みがありました。これからの教育を考えたときにこういう取り組みはとても大切だと思います。GIGAスクール構想というものをちょうど朝霞市で取り組んでおります。1人1台iPad等を与えて、

その中でこれからの子どもたちに10年後、20年後必要な力を育んでいく、ということこれからどんどん取り組んで行っていきます。朝霞第五小学校でも臨時休校中にインターネットで授業動画を100本くらい配信して、その中で再生数、どのくらい子ども達が実際に見たのか、またアンケートを保護者や子どもにとって、どこが良くてどこが悪かったのかを回収してまた改善したものを載せるということをやりました。それはそれで効果があったと思います。確かに限られた人員の中で予算もなく大変だと思います。実際に見に来て触ったり学芸員の専門的な話を聞くのが一番メインだと思いますが、例えばホームページなどを改善しつつやっていくというのも今後10年後、20年後の博物館のことを考えたときに、良い取り組みなのかなと思います。そういったことを検討していただけると大変ありがたいかなと思います。よろしくお願いします。

(関口課長)

ただいま御指摘を受けましたホームページの件でございますが、現在朝霞市内の博物館所蔵の古文書などの資料紹介を含めて、古文書講座が開催中ですがそのようなものをホームページに掲載して、まずは資料紹介と解説などが入りそれで勉強できる。なおかつそこに何か動画が入ればいいなというのを調査員と検討しているところでございます。できれば来年度やってみたいと思っておりますので、その際はよろしくお願いいたします。

(唐松委員)

ぜひ、予算をとっていただいて頑張っていたきたいです。ありがとうございます。

(金子会長)

五味さんは初めてですし、何かございますか。

(五味委員)

あまりない質問かもしれませんが、当館でも博物館実習を開催しております。こちらでも今年度は4大学4名の方がいらっしゃったということですが、受け入れる対象としては埼玉県内の方ですとかそういった規程というのはあるのでしょうか。

(赤澤課長補佐)

一応、6名の枠がございます。学部と専攻、朝霞在住の方かといったところで優先順位をつけているところになります。

(関口課長)

博物館実習ですが、当館で行いますと考古や民俗系のものが多いので、人文系の実習になります。例えば専攻が天文学ですとか、動物学が専攻ですといった方が稀に応募される場合がございますので、応募要綱を再編成しましてホームページに掲載しております。あまり、専門がかけ離れたところで実習を行っても、というところがありますのと、人数も従前はもう少し多かったのですが、どうしてもまとまりがつかなくなってしまうので、人数についても若干絞らせていただいているところでございます。

(五味委員)

ありがとうございます。博物館実習の活動は博物館の実態を一般の方に知っていただく上でもすごく大事な活動だと思っております。去年はきっとコロナのこともあって受け入れるかというところも含めてきっと悩まれたと思いますけど、ぜひ来年度以降も続けていただけたらと思っております。

(金子会長)

はい。

では、次へ進んでよろしいでしょうか。それでは、議題（２）令和３年度事業計画について、事務局からお願いします。

(赤澤課長補佐)

はい、では資料２－１をお開きください。令和３年度の事業計画となります。基本的には今年度できなかったものが、そのまま３年度にスライドするような考え方になっております。ただ、３５回企画展につきましては、担当学芸員がテーマを変えております。「はまさき」ということで、浜崎村の範囲に限ってそちらを主に埋蔵文化財から通史的に概観するような展示にしたいということで、少しテーマが変わっております。

夏のテーマ展示につきましては、小中学生の夏休み期間に合わせて自由研究の一助となるような展示を行えればと思っておりますが、テーマにつきましては未定でございます。

また、朝霞市県展作品展につきましては、先ほど申し上げましたが第７０回埼玉県美術展覧会が来年度も開催しないと県から発表がございましたので、こちらにつきましては行えないと考えております。

ギャラリー展示につきましては、「午房地山と武蔵野台地の横穴墓」が継続事業となりまして、来年度の６月６日まででございます。みんなあーちすとなつきましたは、まだ検討中でございます。やはりワークショップが、狭い空間で密になってしまうところがございますので、難しいかなというような感じです。

また、冬のギャラリー展示は1月くらいからの予定でございます。

資料紹介展示・生体展示につきましては、今年度と同様に行う予定です。

次に、資料2-2です。歴史講座・古文書講座は今年度と同様に冬の時期で定員は情勢を見てですが、コロナウイルスの終息が難しいようでしたら定員はやはり30人程度に絞る必要があるかなというように考えております。

また、体験教室系につきましても情勢を見たうえで、検討してまいりたいと思います。

博学連携事業におきましても、教育指導課及び博物館利用検討委員会と調整のうえで実施の可否につきまして検討してまいりたいと思います。

博物館実習はまた夏の時期に定員6名で行う予定でございます。

古文書調査も引き続き行ってまいります。

簡単ですが、来年度の予定は以上です。

(金子会長)

はい、ありがとうございます。

令和3年度事業計画について、何かございますでしょうか。

(酒井委員)

歴史講座ですが、今年度定員オーバーだったものを第2弾という形で検討されているのか、あるいはまた別の歴史講座ということで新たなものを検討されているのか。個人的には人気があるものは第2弾、第3弾というように催していただくということも検討いただくと、市民の方も1回外れたが2回目にチャンスがあるという形で、好評なものは連続性を少しもっていただくといいのかなと思ったりもしたので、その辺りをどのような計画なのでしょう。

(関口課長)

今年度は太田道灌ということで、中世に焦点を当てている講座でして、申し込みも、定員を超えていただいたところでございます。その辺も含めまして、参加する方々のどういったものを勉強したいのかを十分に配慮しながら題材についても考えていきたいと思っております。

(金子会長)

あと、何かございますでしょうか。

(関口課長)

まだ、予定がはっきりはしませんが1点、来年度の予定で追加がございます。昨年度にオリンピックの白黒写真の展覧会を博物館にて実施いたしました。その

中の素材で特に射撃に焦点を当てた写真展を、オリンピックの期間中に、残念ながら当館ではありませんが、中央公民館で小さいスペースですがやっていただけないかというお話を、オリンピック・パラリンピック準備室の方からいただいております。今のところ、オリンピック及びパラリンピックは開催されると思いますので、その期間中に中央公民館の方で写真展を開催する予定でございます。

(金子会長)

そうですね。それは良い企画ですね。

今年の場合は、博学連携ができなくて小学生の皆さんもリモートで行ったことですが、やはり博物館の方へ出てきて、あるいは出張で色々と体験をやったりしてくれていたけれど、やはり子どもたちにとって博物館を知っていただけるようにね、コロナが終わってそういうふうになるといいなというように思っております。

(酒井委員)

今会長から話があったのですが、博物館と学校が連携するというのは新たな、朝霞スタイルと言ったら変かもしれませんが、学習教育にも非常にプラスになりますし、先ほど校長からお話がありましたとおりGIGAスクールとも、先取りをするような話にもなりますし。会長のお話の冒頭に大栄翔のことがございましたが、朝霞モデルといいますか、新たな学習モデルですかね。いいチャンスでもあるし、ぜひコロナの中でもネットを使った進め方というのは非常に素晴らしいなと思います。朝霞のPRにもなるので博物館と学校が連携してGIGAスクールとも連携した新たな取り組みでいいかなと思いますし、全国に朝霞をPRする題材にもなると思いますのでチャレンジできればいいなと思います。

(関口課長)

博物館と学校の連携というのは、学習指導要領に載っておりますので基本的には行うこととなっております。ただ、それをどのような形で行うのかというところが一番問題になってくると思います。朝霞市博物館の場合、開館当初から学校とはかなり連携してきておまして、現在も教育指導課とさまざまなお話をさせていただいております。確かに、子どもたちに博物館に来ていただく非常に良い機会ですので、今後も教育指導課と連携をとりながら事業を行っていきたいと考えております。

(金子会長)

あと、ほかに何かございますでしょうか。

(酒井委員)

私1度アンケートを記入したことがあります。今もあるのかわからないんですけど、ここに来館した方のアンケートをとってそれをうまくPDCAではないですが評価というか満足度、あるいは希望・意見要望のようなものを吸い上げて次年度に生かされたりというのはどうなのでしょう。

(関口課長)

現在、アンケートは感染症予防から撤去しておりますが、日頃は常設で置いてあります。あと企画展・講座ごとにアンケートをとるということで、参加された皆様からのフィードバックは常に得るようにしているところです。ただ、なかなか傾向としては来館される方の聞きたい話が例えば幕末に集中したり、戦国が多かったりですとかがございます。それはそれでひとつ意見として受け止めております。ただ、そればかりですとさらに学習の機会も広がらないということもございます。お話を伺いながら、こちらとしても提供したい学習のテーマにつきましては提供していくというスタンスでやっているところでございます。

(金子会長)

丸沼のゴッホの展示会がありまして、来年度どの辺りで入れるかというのは未定ですか。

(関口課長)

そうですね。取り急ぎ今回はこのままだと開催が難しいということで、開催を延期しようということで決定いたしました。今後につきましては榎本委員からもさらに拡充してというお話もいただいておりますし、それにつきましては丸沼芸術の森と御相談させていただいて、どのような絵画を御提供いただけるのかということも考えながら。期間につきましても今回は1週間ほどで短かったので、もう少し期間を長くとりたいと思っておりますので、その辺りも含めて相談をしていきたいと考えております。

(金子会長)

大勢来ると、密になってはいけないのでね。本当に丸沼さんみたいなところから借りている市なんてどこにもないですよ。本当に私はそう思います。だから、大いに利用してくれと社長からは言われてるんですよ。

あと、なにかございますか。

(茂木副会長)

刊行物で、丸沼さんのポスターとチラシが没になったわけですよ。私、一瞬

予算がなあと思いながら。日付だけ変えるなら、お手伝いに行きたいなと思ったりしたんです。内容を膨らませるとなると企画自体が変わる、そうするとポスターもチラシも変わるんだろうなと思って、全部前のがだめになってしまうんだというのが、少しショックです。

(金子会長)

残念でしたね。

(関口課長)

ポスターとチラシにつきましては、館内に少し置かせていただいて来館された方に観ていただいているというところでございます。それを見ていただいて、なかなか珍しいゴッホの作品があるんだということも、気付いていただけたらなと考えております。また、再度展示を行う際には改めて作っていきたいと考えております。

(金子会長)

期間も長くなりますしね。

(関口課長)

そうですね。今回は10日もなかったのです。

(金子会長)

マスコミも相当来るんじゃないですか。

(金子会長)

それでは、意見の方もそろそろ色々出たようですが、この辺りで議題(2)令和3年度事業計画については、よろしいでしょうか。

(委員全員)

はい。

(金子会長)

それでは、議題(3)その他について、事務局からなにかございませんでしょうか。

(関口課長)

事務局からはございません。

(金子会長)

では、これで議題につきましては終了しましたがよろしいでしょうか。

それでは、議長の席を下ろさせていただきます。よろしくお願いいたします。どうも御審議ありがとうございました。

(赤澤補佐)

ありがとうございました。それでは、閉会のお言葉を茂木副会長お願いいたします。

(茂木副会長による閉会の挨拶)

(赤澤補佐によるギャラリー展示の御案内)